

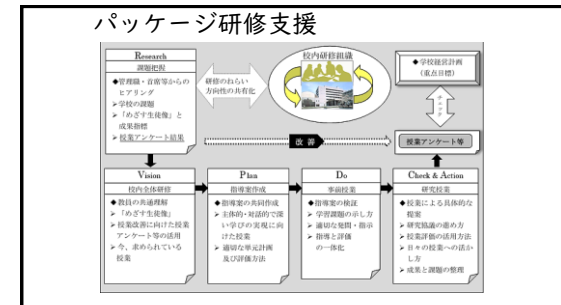
2. 全体研修資料

(2) 全校研究②

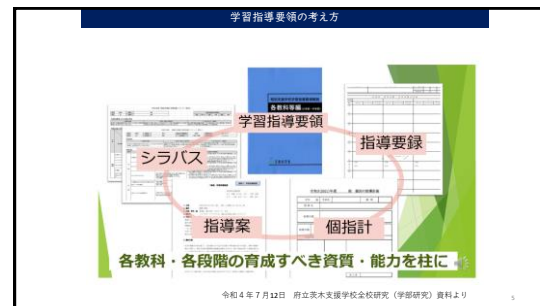
**令和4年度 茨木支援学校パッケージ研修支援
～観点別学習状況の評価について～**

大阪府教育センター
支援教育推進室

1. パッケージ研修支援について

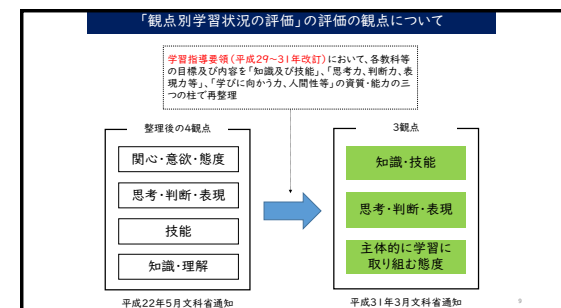
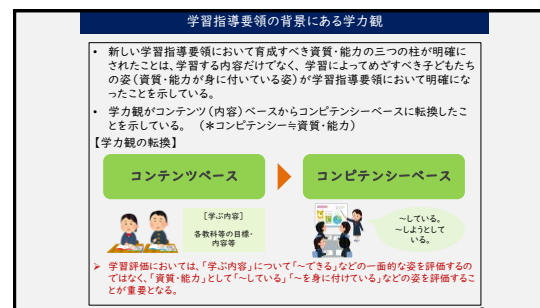
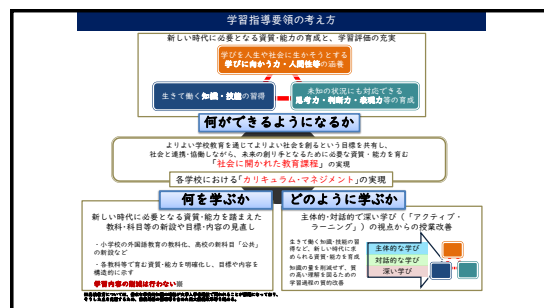


2. 育成すべき資質・能力と
観点別学習状況の評価



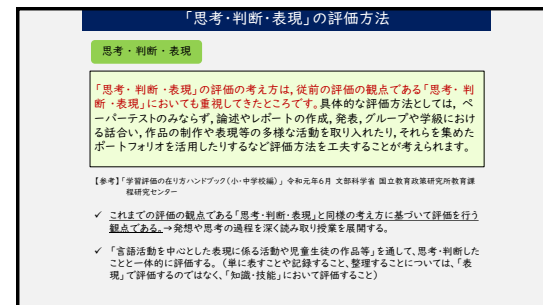
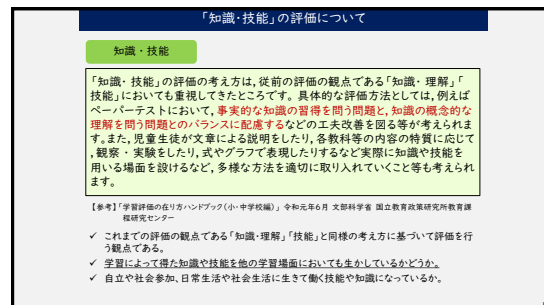
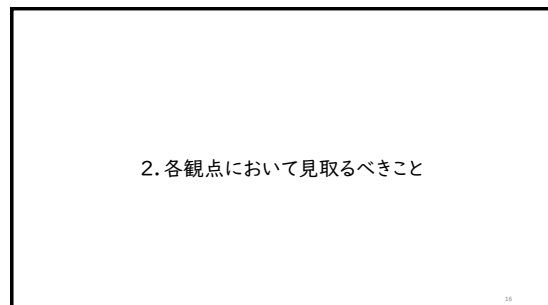
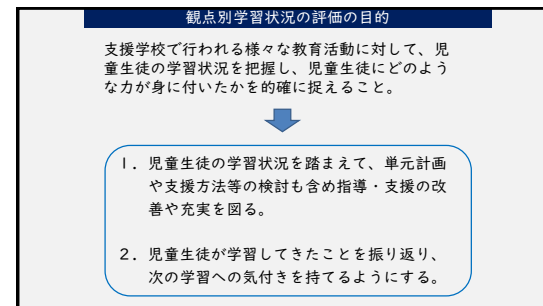
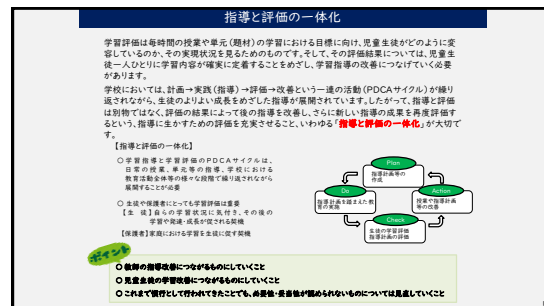
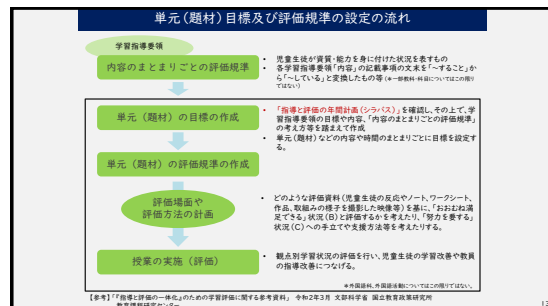
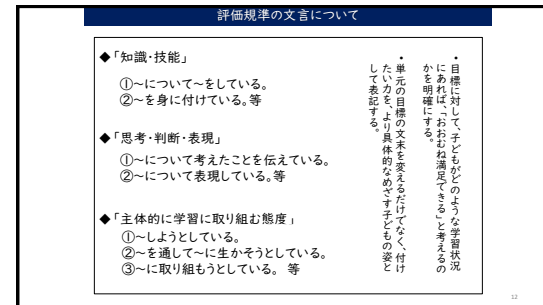
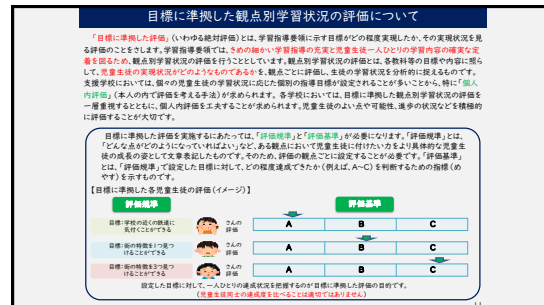
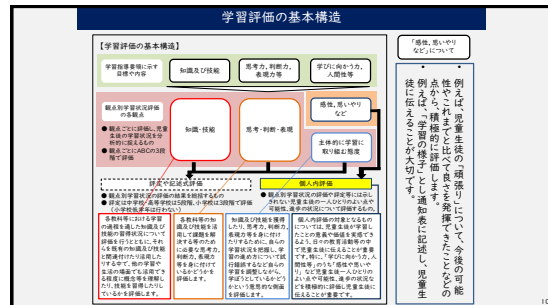
学習指導要領の考え方

The diagram shows the 'Learning Guide' (学習指導要領) as the central concept. It is supported by 'Knowledge and Skills' (知識及び技能), 'Thinking, Judgment, and Expression' (思考力、判断力、表現力等), and 'Learning Attitude' (学びに向かう力、人間性等). The 'Learning Guide' is further divided into 'Knowledge and Skills' (知識及び技能), 'Thinking, Judgment, and Expression' (思考力、判断力、表現力等), and 'Learning Attitude' (学びに向かう力、人間性等). The 'Learning Guide' is also supported by 'Knowledge and Skills' (知識及び技能), 'Thinking, Judgment, and Expression' (思考力、判断力、表現力等), and 'Learning Attitude' (学びに向かう力、人間性等).



2. 全体研修資料

(2) 全校研究②



2. 全体研修資料

(2) 全校研究②

「思考・判断・表現」における「表現」とは

思考・判断・表現

「言語活動を中心とした表現に係る活動や児童生徒の作品等」を通して、思考・判断したことと一体的に評価する。

例えば、自ら取り組む課題を多面的に考察しているか、観察・実験の分析や解釈を通じて規則性を見いだしているかなど、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価するものである。

【引用】「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」平成22年3月24日 中央教育審議会初等中等教育分科 会教育課程部会

A 聞くこと・話すこと	教師の話や読み聞かせに並び、表情や身振りで表現すること
B 書くこと	経験した事柄についての気持ちや動作等で表現すること
C 読むこと	示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること

【参考】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）、平成30年3月、文部科学省

「思考・判断・表現」と「技能」

思考・判断・表現

知識・技能

「技能」は、各教科において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。すなわち、算数・数学において式やグラフに表すことや理科において観察・実験の過程や結果を的確に記録し整理すること等については、「技能」において行う。

単に表すことや記録すること、整理することについては、「表現」で評価するのではなく、「技能」として評価すること

歌唱、器楽、絵、デザイン等の指導の内容を示す「表現」は、音楽、図画工作、美術の各教科において示す領域の一つであり、観点としての「表現」とは異なる。

【引用】「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」平成22年3月24日 中央教育審議会初等中等教育分科 会教育課程部会

「資質・能力」と「内容」の関連について

（例）美術科 中学部 1段階より

	A 表現	B 鑑賞
知識	○ 形や色彩、材料や光などの特徴について知ること【共通事項】	
技能	○ 材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと	
思考力・判断力・表現力等	○ 造形的な特徴などからイメージをもつこと【共通事項】 ○ 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考え、発想や構想をすること	○ 自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞を通して、よさや面白さに気付き、自分の見方や感じ方を広げること。 ○ 表し方や材料による印象の違いなどに気付き、自分の見方や感じ方を広げること

【引用】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）、平成30年3月、文部科学省

「技能」「表現」について留意すべきこと

領域の一つであり、絵、デザイン等の指導の内容を示す「表現」と、評価の観点としての「表現」は異なること

材料や用具を選んで使い表すことについては、「表現」で評価するのではなく、「技能」として評価すること

領域としての「表現」	評価の観点としての「技能」「表現」
○ 形や色彩、材料や光などの特徴について知ること ○ 材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと	→ 「技能」として評価する内容
○ 造形的な特徴などからイメージをもつこと ○ 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること	→ 「思考・判断したことを「表現」する活動」を「思考・判断・表現」として評価する内容

【参考】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）、平成30年3月、文部科学省

「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

① 粘り強い取組を行おうとする側面
② 自らの学習を調整しようとする側面
の二つの側面から評価する。

→ 実際の評価の場面においては、双方の側面を一体的に見取る。

【引用】「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校版）」令和元年6月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

事例から考える「主体的に学習に取り組む態度」

【国語】
（単元名）新たに知った言葉を紹介する ～聞き手を意識して話す～
第1学年 A 話すこと・聞くこと

（評価規準）「主体的に学習に取り組む態度」
・ 粘り強い取組を工夫し、学習の見通しをもって新たに知った言葉を紹介しようとしている。

※ ①粘り強い取組を行おうとする側面を表している。
※ ②自らの学習を調整しようとする側面を表している。

✓ 当該単元で育成する資質・能力と言語活動にに応じて作成する。
✓ ①②に関連付けた文言を評価規準に含める。

【参考・引用】「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校 国語）、令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

事例から考える「主体的に学習に取り組む態度」

時	主体的学習活動	評価する内容	評価方法
1	○ 「読書手帳」を日頃から大切に知った言葉を書き留めている手帳」などから、自分が発達に知った言葉を決める。	【思考・判断・表現】①	ノート
2	○ 話し方の工夫について話し合う。 ○ スピーチの構想メモを書く。 ○ スピーチの練習を行う。	【主体的に学習に取り組む態度】①	授業観察 ノート
4	○ スピーチの発表会を行う。 ○ 他者のスピーチを聞いて「新たに知った言葉」として「読書手帳」に書く。	【思考・判断・表現】② 【知識・技能】①	発表 ノート 読書手帳

【評価規準・評価方法等】
【主体的に学習に取り組む態度】① 授業観察・ノート
・ ここでは、練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように 選んだ言葉を紹介しようとしているかを確認する。

【参考・引用】「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校 国語）、令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

事例から考える「主体的に学習に取り組む態度」

【評価メモ】
（Bと判断する状況の例）
・ 練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように 選んだ言葉を紹介しようとしている。

（Aと判断するポイントの例）
・ 速やかさ・丁寧さ・集団への寄与・興味の広がり・応用・活用の意識 など

（国語の事例のポイント）
・ 総時間数5時間の単元において、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を3時間目のみで行っている。
・ 生徒が工夫をしたり、話し合いを行ったり、構想を練ったりなど、自らの学びを調整できるように内容を設けている。
・ 評価方法は授業観察、ノートによる方法を用いている。
・ 評価規準は、本単元の言語活動等に応じて、①②の側面を含む表現で記述されていること。①→粘り強い取組を行おうとする側面、②→自らの学習を調整しようとする側面
・ 「評価メモ」により、どのような生徒の姿が「B」であるか明確にしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイント

① 粘り強い取組を行おうとする側面
例えば、何かを継続して「工夫」しようしたり、周囲の人と積極的に関わろうとしたりしている姿を評価する。

② 自らの学習を調整しようとする側面
例えば、自らの学びについて、気付いたことや反省点、改善点や振り返り、次の学習に向けた意欲を述べたり、自分自らの表現で表したりしている姿を評価する。

【評価方法の例】
1. 授業観察
✓ 評価をする子どもの姿を明確にしておくことが重要であり、場合によっては「評価メモ」を作成しておくことが必要。
2. ワークシート
✓ 学習の始め、途中、最後に記入できるように工夫するなど、子どもが自らの学びを振り返り、調整できるようにしておくことが重要。

2. 全体研修資料
(2) 全校研究②

3. ワーク

28

個人ワーク

身体不自由

A) 対象を数秒間見続けたり、注意を向け続けたりすることが難しい。
B) 覚醒のリズムが不規則で十分な睡眠がとれず、眠った状態で登校することが多い。
C) 機嫌の良いときには小さな声を出す。
D) 話しかけられたり、笑いかけられたりしても、相手に応じることが少ない。
E) 快、不快の表出が曖昧なときがあり、不快なときに笑顔になることがある。
F) 他者からの関わりに対して、注意を向けることが難しい。
G) 自分の名前を呼ばれても、表情や身体の動きなどで応えることがあまり見られない。
H) 腰や肩への教師の援助がないとあぐら座位の保持が難しい。
I) 定額しつつあるが、座位保持椅子での座位では、頭部が前傾することが多い。
J) 首、肩周りの筋緊張が強い。
K) 静かなところで喋ったときに気づき、表情を変える。

参考：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編

29

個人ワーク

部 学 年 級	児童生徒名	性別	
授業名			
長期目標			
学習内容	支援方法・配慮	具体的な手立てと評価	

30

個人ワーク

時 主たる学習活動 評価する内容

1 ○ 「読書手帳」(日頃から、新しく知った語彙を書き留めている手帳)などから、自分が発達に紹介したい言葉を決める。 【思考・判断・表現】①

2 ○ 話し方の工夫について話し合う。 【主体的に学習に取り組む態度】①

3 ○ スピーチの練習メモを書く。 【知識・技能】②

4 ○ スピーチの発表会を行う。 【知識・技能】②

5 ○ 他者のスピーチを聞いて新たに知った言葉と用例を「読書手帳」に書く。 【知識・技能】①

「支援方法・配慮」「具体的な手立てと評価」については、3観点に分けて考えてみましょう

ア.知識・技能
イ.思考・判断・表現
ウ.主体的に学習に取り組む態度

31

グループワーク

個人ワークで考えた個別の指導計画について交流しましょう

32

4. まとめ

33

まとめ

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

・ 観点別学習状況の評価によって見取るのは、どのような力が身に付いているかという子どもたちの姿です。
・ 教科担当者も学習によってめざすべき子どもたちの姿を具体的にイメージすることが大切です。場合によっては観点メモ等に記述すること考えられますが、いずれにしても教科担当者の間や児童生徒や保護者との間でイメージを正しく共有することが大切です。
・ 実際の指導においては、単元(題材)の目標を明確にし、単元(題材)の目標に基づいた指導を行い、評価を行うことが大切です。

【参考：引用資料】
・ 平成31年3月29日初等中等教育局長通知
・ 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」平成31年1月21日 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
・ 「教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」平成27年6月26日
・ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(要旨)」平成28年12月21日 中央教育審議会
・ 「学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編)(高等学校編)」令和元年6月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
・ 「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
・ 「特別支援学校小・中学校学習評価参考資料」令和2年4月 文部科学省

34